

リヒターの子供繪に就て

倉橋生

本號から表紙繪にリヒターの子供繪を、毎號一つ宛載せることにしました。それに就てひと言説明をして置きませう。

リヒター(Ludwig Richter. 1804-1884)は獨逸の畫家です。伊太利や佛蘭西などの大家の様に、我國には一般に聞えて居ませんけれども、獨逸では國民的美術家として大に尊敬せられて居ます。其の傑作はドレスデンの美術館や、ライプチヒの美術館に陳列せられて居り、獨逸人の誇りとして居るところです。其の美術史上の評論は茲では略するとして吾々にとつて興味深いのは、此の美術家が子どもの繪を澤山描いて居て呉れることです。

リヒターは敬虔なカソリック教の信仰をもつた人でした。それに、平生靜かな田園の生活に落ち著いた藝術心を養ふて居た人でした。それで、其の作品は、いづれも平和と溫良と靜穩のこゝろもちを特色として居ます。好んで子どもを描いたのも、子どもの生活に、平和と溫良と靜穩とを見出した爲です。

リヒターの作には、其の主趣の如何に拘はらず、殆んどきまりの様に、靜かな森と、可憐な草花と、ゆるやかに歩む羊と、たのしく歌ふ小鳥と、平和な老人と、嬉々たる子どもとが畫中に配せられて居ます。なかには、その中の子どもが主になつて居るものも尠くありません。その子ども達は、みんな、無邪氣と單純と、幸福と、平和との子どもばかりです。

リヒターはまた、子どものための繪本を描き、子どものためのお話の本の插繪を澤山描いて居ます。その中に、その素樸な版畫の中に、大作に劣らない味の多い子供繪があるのです。本號から表紙繪に載せるものは、さういふものゝ中から選んだものです。但し、これ等が一番優れたものといふ嚴密な選擇をしたのではなく、版刻に便利なものを選んだ譯ですが、それでも、リヒターの味は充分味はへると思ひます。

理屈や、學問的な言ひ方では盡し得ない子どもの生活の或るものは、こゝうした大美術家の天才的な見方とあらはし方を俟つほかありません。